

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の理念はまだありませんが、法人の理念に添い、地域に馴染んで生活していける事や、その人らしい生活を大切に考え、私達は日々の中で、話し合いを持ちご利用者の暮しや人格を尊重していける支援に心掛けています。	法人内の高齢者・障害者福祉施設等の16ヶ所の施設統一理念に基づき、「御利用者が住み慣れた地域の中で生活し、医療と介護、家族と地域住民との連携の基に、尊厳のある安心できる日常生活の継続を支援する」ことをホームの方針とし、職員間で共有し実践している。	地域密着型サービスであることを踏まえたホーム独自の理念を掲げ、日々のケアに活かされることを期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方とはまだ、馴染みは薄いですが散歩、外出して近隣の方々と交流していけるように努力しています。敬老会への参加や幼稚園との交流、行事の情報など区の方からいただいで交流できるようにしています。	地区の自治会費を納め、地域の一員となっている。地元の行事案内も配布されており、地区のお祭り際にはこども神輿が立ち寄りホーム内で獅子舞の披露がされている。近くの幼稚園児も年3回ほど来訪し歌を披露している。社会福祉科専攻の短大生やヘルパー実習生の受け入れなども行っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	併設の予防介護教室へ参加して地域の皆さんへグループホームの様子を紹介したり相談を受けたりしています。見学者や実習生の受け入れも行っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に出席していただいた方々へ事業所の進捗状況を報告し、話し合いや御意見、助言を頂きサービスの向上に役立てています。	家族、地区社協会長、民生児童委員、区長、市介護保険課担当者、地域包括支援センター職員、法人関係者、管理者等が参加し2ヶ月に1回開催している。会議の際にホーム便りを配布し、ホームの状況報告を行っている。火事などの万が一の場合を想定し、地元との防災協定の締結についてもお願いをしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎回出席して頂き、事業所の様子を知っていただき、助言、相談などに乗って頂いています。アドバイスを受けサービス向上に努めています。	介護保険課担当者も運営推進会議に参加しており情報交換を行っている。介護認定の更新時にはホームで家族立会いの上、情報提供を行っている。家族から依頼を受け、申請代行を行うこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内では職員に拘束についての研修参加や、カンファレンスの中で、拘束のついて話し合いを持ち意識して実践できるようにしています。また、日々のケアの実情に併せながら施錠しないように努力をしています。	事務所には「身体拘束排除宣言」が掲げられており、職員は常に意識している。法人内での研修も行われ参加している。自宅の様子が気になり離脱傾向が見られる方にはドライブを兼ね自宅近辺までお連れし、確認して帰って来ていただくなど、利用者が納得し、安心して暮せるよう支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての理解を深めていくように研修や勉強会を設けていきます。業務の中で疑問に思える言動、行動など指摘し見逃さない支援を心掛けています。		

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度、日常自立支援制度を利用されている方が数名おり、それぞれの担当者との連携をとっていますが、その内容について十分な理解ができていません。今後、勉強する機会を設けていきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約の内容、重要事項等の説明をご理解いただいております。変更があった事項、状態の変化に伴う機器等の負担についてもご家族との話し合いを行い、ご理解を得られるようにしています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議へご家族代表の方の出席をお願いし意見、要望をお聞きしたり、来所時や電話などでお話いただける環境作りに配慮しています。又、日々、職員、管理者がご利用者、ご家族等のお話に傾聴する努力をしています。	意思表示が困難な方もいるが、利用契約時の家族からの聞き取りを基にしホームでの日頃の様子を感じ取り支援するようにしている。家族には面会時に声掛けし、要望などを聞くように心がけている。家族が宿泊し一緒に過ごされる方など、可能な限り希望に沿えるよう支援している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は職員の会話、提案、意見等を聴くように心掛けています。チームとしての連携がとれるように気配りをし、より良い信頼関係が出来るように努めています。	2ヶ月に1回、全体ミーティングを全員参加の下に開き、意見を聞き運営に反映させている。日々開いているミーティングでも職員の希望等を聞くようにしている。職員へのアンケートもあり、回収した後に個人面談を行い、意見や要望を聞き、運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は各事業所の管理者と共に個々の努力や実績、相談事等の把握に努めています。個人面談や、アンケートなども実施し働き易い環境になるようにしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人主催の施設内研修が年に3、4回実施されほぼ全員が参加しています。外部研修にも資質向上のために参加できるように職員へ情報提供しています。会議の中で困難事例などの検討し話し合いを設けチームケアに結び付けています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、まだ少ないですが今後、勉強会、研修、活動などしている会に参加しネットワーク作りに積極的に参加し交流を深めたいと思います。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用について相談があったときは笑顔を忘れず、ご本人とご家族に面会し、心身の状況や訴えていること、話したいことに傾聴して不安を取り除けるように配慮しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所に至るまでのご家族の心情やご本人気持ちに配慮して、相手の立場になって話を聴き、気持ちを受け止めて信頼関係に築くように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時ご本人やご家族の実情や希望をお聴きし利用に繋がる方が確認させていただき、その状況に応じて他のサービスの繋げるようにしています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護する側、される側でなく、一日、一日を共に笑い、共に泣き、認め合えるような関係作りに努めています。職員は、「有りがとう御座います」と言う感謝の気持ち、言葉を忘れないように心掛けています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	日頃からご家族等の訪問が多く、時には泊まれご家族の方もおられます。事業所内で起きたことは直ぐにご家族へ連絡するように職員へ伝え、協力を頂くこともあります。疎遠の方、遠方の方には電話、新聞などで様子をお知らせして密な連携をとっています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が有る方は、知人の方、親戚の方が面会に来られて過ごされています。関係が薄い方は良く行っていた場所などに行き過ぎて頂くようにしています。	同窓会に参加し友人と会われたり、行きつけの理容院や善光寺参りに出掛けるなど、馴染みの場所にお連れしている。家族と連携し東京まで行き、娘さんに会って来られた方もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者の個性を尊重してそれぞれに出来ること、楽しめること等をして頂いています。日々、トラブルもありますがその中で職員が介入する事で自然と解消で来る事も多いです。お互いが認め合える関係になれるように支援しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居の方との交流は今のところありませんが、移られた事業所の方から近況状況を知らせていただきました。機会があったらご利用者と訪問したいと考えています。今後も出来る限り親睦を深る努力をしていきます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で、利用者が発した言葉や表情を感じ取り、利用者がどんな思いでいるのか推測し確認できるようにしています。職員間でも意見を出し合いその方の立場になって支援できるよとしています。	家族からの希望もあり法人内のデイケアを利用されている方もいる。好きな歌手のCDを聞いていただくことで表情が大変よくなった利用者もいる。音楽療法を月に2回取り入れていることもあり、利用者は日頃から歌を口ずさんでおり大きな楽しみとなっていることが窺えた。日頃のつぶやきもしっかり受けとめ、職員間で情報を共有し、希望に沿えるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始時にご家族、ケアマネからの情報を提供して頂き、過去の生活歴や暮らし方を把握して今後の暮らしの継続に繋げています。入居後もご家族へお聞きして情報収集を継続しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者の心身の状態を踏まえ、やりたい事、出来ること、などを通してホームの一員として役に立っている、生活しているという実感をもって頂けるに支援しています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご家族へは、ご利用者の日頃の様子をお話して密な関係を築ける様にしています。又、それぞれ方と一緒に話し合い、今の生活のなかでの思いや、意見をもとに見直し、介護計画に反映出来るようにしています。	職員の担当制にしており、食事の用意や片付け、洗い物など、利用者がスムーズに行えるようにサポートする介護計画を立案している。アセスメント兼評価を行い、6ヶ月を目安に見直しもを行っている。家族の面会時の要望や状態の変化に応じて随時の見直しもしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録は日常の変化、出来事、気づきなどを記入することで職員同士が情報の共有し、その記録を基に介護計画の見直し、評価に活かしてしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	全ての方が対称ではありませんが、隣接の事業所で介護教室へ誘って頂いたり、ご家族のご希望で、デイケアに行かたりされています。今後も柔軟に対応できるように努力しています。		

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地区の役員さんのご協力を得て子供神輿や、お神楽などに来ていただいたり、併設のデイサービスの皆さんと合同で幼稚園児と交流しています。今後も交流を続けて行きたいです。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族の希望に応じて職員がかかりつけ医や協力病院への受診、緊急時の対応などを行っています。又、ご家族が対応して下さる時はその医療機関の情報を頂き、当該看護師との連携も密に取れるようにしています。	利用前からの主治医を継続されている方もいるが、利用契約時に希望を聞き、協力病院となっている法人系列の病院を主治医に変更された方も多し。受診の際は職員が付き添い情報提供している。受診結果は家族にも報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師による日常生活の健康管理や医療面の、相談、助言対応を行っています。職員との連携もとれています。協力病院との連携もとれています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中はご家族と連絡、連携に努め、ご本人の様子をお聴きしてからお見舞いに伺うようにしています。医療機関、ご家族からの情報提供を受け看護師との連携で退院に結び付けています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化における看取りの指針を説明し同意を頂いています。また、看取りの方はいらっしゃいませんが、今後も、ご本人やご家族のお気持ちに添いながら、ご家族、協力病院、事業所との話し合いを持ち、状況の変化あった場合は、相談、意志確認をしながら取り組んでいきます。	利用契約時に重度化した場合の対応について希望をお聞きしている。開設後まだ看取りの経験はないが、今後重度化した場合には家族の気持ちを考慮し、その都度意思を確認し、家族、ホームの協力病院、看護師と相談しながら希望に沿えるよう支援していく方針である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	看護師による救命救急法、AED実技指導の実施をしています。個人で消防署の講習を受講している方もいます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練には消防署の職員に出席して頂き避難経路の確認、安全な誘導方法、夜間の避難方法など指導していただいています。日頃の支援の中でも誘導方法について確認しています。運営推進会議では地域との防災協定について話し合いが続けられています。	スプリンクラー、自動火災通報装置などが備え付けられており、2階の避難口はエレベーター以外に3箇所設けられている。消防・避難訓練を年2回行っている。隣接の通所施設との合同訓練も予定しており、地区との防災協定締結もお願いしている最中である。近くの小学校には地区の備蓄が用意されており、そこも利用できることを運営推進会議で地区の委員の方から教えていただいた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりを尊重し、より良い信頼関係が築けるように、職員は馴れ合いにならない関係を保つた為にも丁寧語で言葉かけするようにしています。無意識の内にプライバシーを損ねないよう会議で話し合いもしています。	一人ひとりの特徴を把握し、それぞれのペースに合わせ声かけや誘導など、気を損ねないように行っている。食事のテーブルの配置も落ち着いており、決まった席で気兼ねなくゆっくりと食事が摂れるように工夫されている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は、その方の一日一日を大切に思い、希望や思いを受け止めるようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側からの押し付けにならない様に心がけています。毎日精神状態、体調も違いますのでご本人のペースで過ごして頂き希望に添えるようにしています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染んだ服装、髪型などその人らしくご自分で選び外出しています。ご自宅のいた時と変わらず、ご家族と一緒に外出へ同行して対応して下さることもあります。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立にも行事食や、四季折々の食材を取り入れご利用者ができることを協力して楽しみながら食事作り等を行っています。職員とも家族のような関係が出来つつあり、互いに支え合って毎日の食事作りや食卓を囲み生活しています。	食事は各階とも2テーブルで、食事のペースや気の合うもの同士、また、介助の必要性により分かれています。季節に応じた行事食や誕生会メニューも用意されている。長野特産の「おやき」や「やしょうまづくり」なども行っている。メニューは職員が立て、法人の管理栄養士に相談している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員が順番で献立をたてますが、魚、肉、野菜などバランスよく取り入れるようにしています。主治医等の情報、指示がある場合は水分制限など行い食事の形態などもその方に併せて支援しています。法人の栄養士からもアドバイスをうけています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご本人の習慣や持っている力を活かし、個々に対応しています。習慣の無い方には少しづつ段階を踏みできるようにしています。出来ない方にはご本人の力の応じて行っています。歯科医師、衛生士の適切な助言も頂き行なっています。		

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、夜間、トイレへの誘導に心掛けて支援しています。その方の習慣を活かすことも大切にしています。失禁が続く方は排泄表を参考にしています。本人が傷つかない配慮もしています。オムツを使用の方は、羞恥心に配慮し居室内であってもカーテンを引く、バスタオルで覆おうなどしていません。	一人ひとりの特徴を把握しそれぞれのペースに合わせ声かけし、トイレ誘導など気を損ねないように行っている。誘導することによりリハビリパンツから布パンツで過ごせるようになった方もおり、自立へ向けての支援が行われている。また、トイレの手摺は赤と青という目立つ色にし、分かりやすいように配慮されている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給を勧め、野菜を中心に食物繊維が多く摂れる食事を提供しています。日常生活のなど身体を動かすことも日頃から行っています。水分制限のある方は主治医の指示のもと薬の服用もしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ほぼ毎日入浴して頂くようにしています。時間、曜日、希望に添えるようにしていますが、入浴の好まない方は声え掛けや誘い方の工夫をしています、身体に負担の大きいかたは家族に相談して決めさせて頂いています。	日曜日以外はいつでも入浴が出来るようになっており、少なくとも週2回は入浴していただけるように声かけている。自分で入浴できる方もおり、手を借りたい時や上がる時などにはナースコールを押していただくようになっている。二人介助の方もおり、利用者の状態により職員配置もその都度検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は家事のお手伝いなどして頂き身体を動かしていただいています。眠れない方は無理強いせず一緒にお話や飲み物など飲みながら過ごしていただきます。不安がある方の場合はその方の精神状態をみつつ付き添うこともあります。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の管理の下、薬の効能、副作用、用法、用量など把握し正しく服用できるようにしています。飲み忘れ、誤薬を防ぐ為に日付の記入、2人での名前確認をしています。状態に変化が見られた場合は記録をし、協力病院、他、主治医との連携を図っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	興味の有ること、今出来る事、得意な事など楽しんでやって頂ける様にしています。食事の準備、食前後の片付け、洗濯たたみ、掃除など役割の仕事もあります。家族から嗜好品の差し入れがあった時は居室で嗜んでいただいています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物やドライブ、寺参りなど近隣へ外出できるように心掛けています。家族との外出は連携を取り県外まで行く方もあります。	年間計画を立てており、行事外出として全体で出掛ける機会を年4回以上計画している。家族と連携を取り、東京の身内宅に外泊された方もいる。近くの公園に散歩したり、体調がよければ出来る限り外気に触れるように支援している。	

グループホームこもれ陽栗田

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金や財布を持っている方はご家族と相談の上、ご自分で管理していただいております。物品を購入した際はご自分で支払っていただけるよう支援もしています。自立支援制度を利用されている方はご本人の意思を確認して金銭管理をしていただいております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を利用している方は自己管理で自由に使用していただいております。ご家族からの連絡、届き物等のお返事など、ご本人に自室や事務所内での使用をしていただき、プライバシーの配慮できるように支援しております。お手紙などのやり取りなどもしております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	改装した建物ですが、限られた空間の中で日々、清潔を保ち、季節感を採り入れるなど、居心地の良い空間作りを心掛けています。職員は目配り、気配りをしてご利用者が居心地良く生活できるように努めています。	ある公的機関の職員寮だったところを改築しホームとして利用しているが、内装は木が多く使われており落ち着いた雰囲気である。利用者が主に過ごされているリビングには二つのテーブルが用意されており、食事のペースや食事の介助などに配慮した席となっている。利用者同士の会話も弾んでおり居心地よく過ごされていることが窺えた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間は少なく狭いですが自由に生活していただいております。自室で過ごされ方々には、お声掛けしてお茶の提供などして過ごしていただいております。座席の席替えや日光浴などで居場所を工夫できるようにしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具を配置し、仏壇のある方もおられます。ご家族の意向、ご本人のこだわりなどを相談して居心地よく暮せるように工夫しています。	個々に使い慣れた家具や調度品が持込まれていたり、連れ合いの位牌と遺影が安置されるなど、落ち着いたように過ごせるように工夫されている。居室の入り口には名札や表札といったものはないが、自宅同様、自分の居室の位置は利用者も理解されており、居心地の良さが感じられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	心身機能に配慮しつつ、ご本人の意思を尊重して、職員が話し合いを行い、用具、器具等、必要時は家族等の協力を得ながらその人らしく生活して行ける環境に取り組んでいます。		